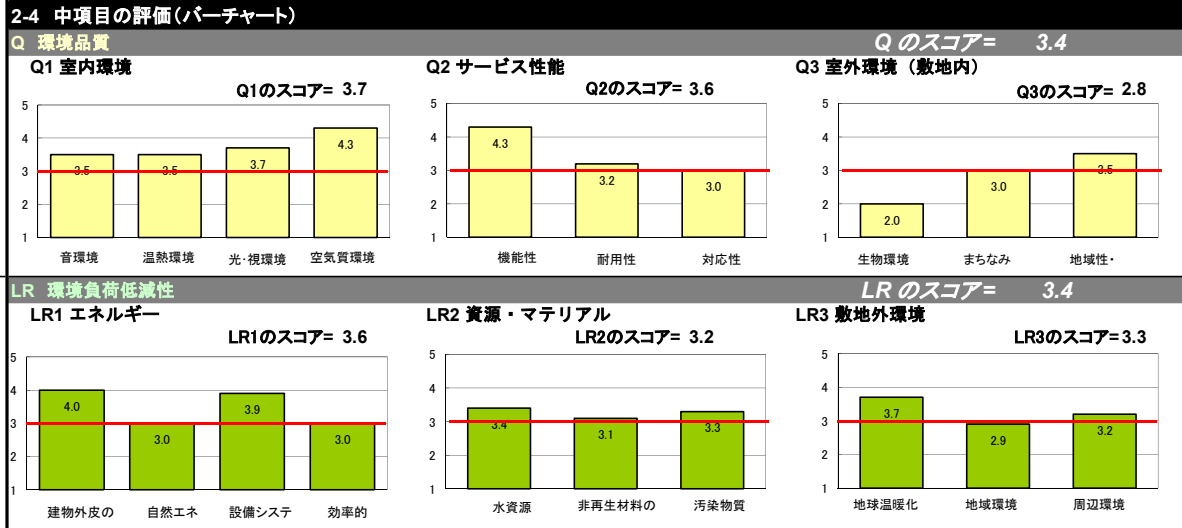
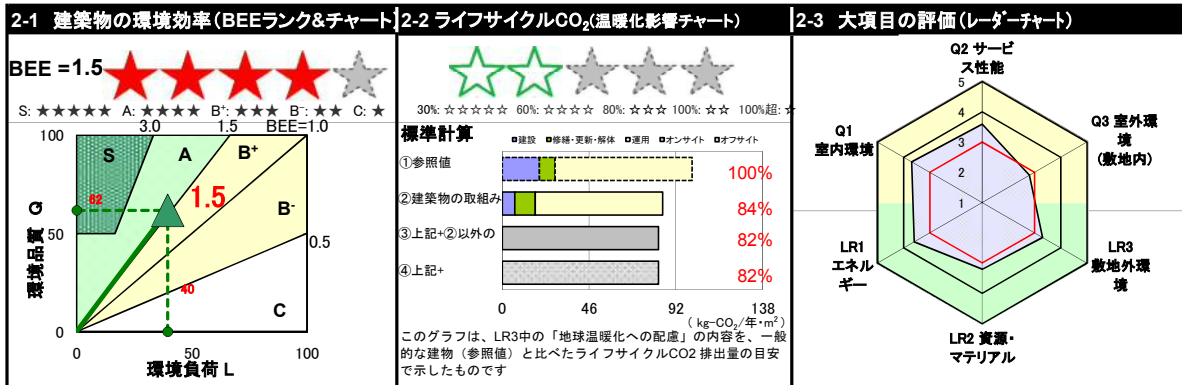


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)グランドメゾン安城Ⅱ	階数	地下0階地上14階
建設地	愛知県安城市朝日町561番7、561番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	156人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年4月 予定	評価の実施日	2019年3月4日
敷地面積	709 m <sup>2</sup>	作成者	加藤 光彦
建築面積	373 m <sup>2</sup>	確認日	2019年3月5日
延床面積	4,149 m <sup>2</sup>	確認者	加藤 光彦



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p><b>3.7</b></p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p><b>2.0</b></p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>138.2 %</b></p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p><b>3.1</b></p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p><b>3.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p><b>岡崎産美濃石積花壇</b></p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
		<b>Q 建築物の環境品質</b>													
<b>Q1 室内環境</b>															
<b>1 音環境</b>															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1.2.1 開口部遮音性能															
1.2.2 界壁遮音性能															
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
<b>2 温熱環境</b>															
2.1 室温制御															
2.1.1 室温															
2.1.2 外皮性能															
2.1.3 ゾーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
<b>3 光・視環境</b>															
3.1 昼光利用															
3.1.1 昼光率															
3.1.2 方位別開口															
3.1.3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
3.2.1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
<b>4 空気質環境</b>															
4.1 発生源対策															
4.1.1 化学汚染物質															
4.2 換気															
4.2.1 換気量															
4.2.2 自然換気性能															
4.2.3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視															
4.3.2 喫煙の制御															
<b>Q2 サービス性能</b>															
<b>1 機能性</b>															
1.1 機能性・使いやすさ															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.1.3 バリアフリー計画															
1.2 心理性・快適性															
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)															
1.2.2 リフレッシュスペース															
1.2.3 内装計画															
1.3 維持管理															
1.3.1 維持管理に配慮した設計															
1.3.2 維持管理用機能の確保															
<b>2 耐用性・信頼性</b>															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2.1.2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
2.4.1 空調・換気設備															
2.4.2 給排水・衛生設備															
2.4.3 電気設備															
2.4.4 機械・配管支持方法															
2.4.5 通信・情報設備															

<b>3 対応性・更新性</b>				3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	3.2	3.2	-	0.50
1 階高のゆとり			階高:2.96m	-	-		4.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ				-	-		2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり				-	-		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			-	-
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			温熱環境に配慮した植栽計画、防犯カメラを設置	3.5	0.30			-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			温熱環境に配慮した植栽計画	4.0	0.50			-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.4
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			外皮等級4	4.0	0.33			-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.17			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.91	3.9	0.33			-	3.9
4 効率的運用				3.0	0.17			-	3.0
集合住宅以外の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
集合住宅の評価				3.0	1.00			-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.2
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水水栓、節水型トイレの採用	4.0	0.40			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00			-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無								-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			-	3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生砕石RC-40	3.0	0.20			-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+LGS+仕上材(断熱材は吹付硬質ウレタンを使用)	4.0	0.24			-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			対象化学物質非含有の接着剤の採用	4.0	0.32			-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	-
1 消火剤				-	-			-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	-
3 冷媒				3.0	0.50			-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率:82%	3.7	0.33			-	3.7
2 地域環境への配慮				2.9	0.33			-	2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	-
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	-
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	-
2 振動		独自		-	-			-	-
3 悪臭				-	-			-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	-
2 砂塵の抑制				-	-			-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明無し	5.0	0.70			-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:138.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>3.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	岡崎産美濃石積花壇
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)グランドメゾン安城]

計画上の配慮事項	
総合	グランドメゾンとして5つのスタンダード「環境」、「街並」、「快適」、「安心」、「信頼」を有機的に結合し理想の住まいをはっきりさせる
Q1 室内環境	吸音クロス採用によるエアキス仕様
Q2 サービス性能	他社より50mm広い廊下、トイレ、メートルモジュールの採用
Q3 室外環境(敷地内)	完全バリアフリー対応
LR1 エネルギー	太陽光発電装置の設置
LR2 資源・マテリアル	LGS採用による森林資源への配慮
LR3 敷地外環境	「5本の樹計画」に沿ったバランスのとれた多彩な植込み、自然石積花壇(地元産石材)
その他	特に無し